

令和7年度 浜松市 英語教育改善プラン

言語や文化、年齢が異なるあらゆる他者の多様性を尊重し、協働しながらグローバルな社会で活躍できる人材の育成。

○言葉や文化が異なる人や大人を含む年齢が異なる人との交流は楽しみであると回答した児童の割合 (R7目標値: 80%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果において、「英語の勉強が好き」と回答した児童の割合が増加した。
- ②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果において、「英語の勉強は大切だと思う」と回答した児童の割合が増加した。
- ③3・4年生におけるALTの活用時数が増加した。
(R6:12時間⇒R7:15時間)

未だ改善が必要な点

- ①「授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合」について、改善が必要である。
(参考: R5: 88.5%)
- ②「『児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業』を実施した学校の割合」について、改善が必要である。
- ③「家庭学習におけるICT機器の活用頻度」において、「行っていない」と回答した割合が高い。

2. 要因分析

- ①②①授業改善研修や経験研修、学校訪問において、言語活動の好事例と授業改善案を周知したことで、言語活動を設定した上での授業改善が進んでいると考えられる。一方、教員の指導経験による部分が大きく、学校間で差が見られる。
- ③ALTの配置人数を2名増員したことで、活用時数が増加した。一方、ALTの効果的な参画方法について、周知されていないことが課題である。
- ②③「学習者デジタル教科書」や家庭学習におけるICT機器の活用事例とその効果等が十分に周知されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組(1)

- ①②③①ALTの効果的な参画による授業改善の促進
 - ・ALTとの効果的なチーム・ティーチングについて理解を深めることを目的とした、JTEとALTによる全校悉皆の「ALTとの連携研修」を実施し、言語活動を通じた授業改善を加速させる。
 - ・ALTの配置数増員に向け、研究員研修において、授業内外におけるALTの効果的な活用方法と、児童の資質・能力育成や学習意欲向上についての成果検証を行う。

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組(2)

- ①②②③ICTを効果的に活用した授業改善の促進
 - ・「AIを活用した英語教育強化事業」への参画により、AI(World Classroom)を活用した授業改善の可能性とその成果について、実証校にて検証を行い、AI普及のための予算化を図る。また、その効果を周知するための研修や授業公開を実施する。
 - ・「令和の日本型学校教育における外国語教育の在り方」における「学習者用デジタル教科書」の効果的な活用の好事例やその教育的効果を周知するために、授業改善リーフレットに基づいた研修や学校訪問での指導を行う。
 - ・「家庭学習の手引き ～ICT活用編～」を発行し、家庭学習における「学習者用デジタル教科書」の活用方法を周知する。

【一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組について】

- ・採用選考試験において、以下の英語資格を有する者に2段階で加点を行い、小学校受験希望者に英語を力の必要性を示す。
 - <第1段階> 中学校免許状、英語検定2級、TOEFL iBT 60点以上、TOEIC 600点以上
 - <第2段階> 英語検定準1級、TOEFL iBT 72点以上、TOEIC 785点以上

令和7年度 浜松市 英語教育改善プラン

言語や文化、年齢が異なるあらゆる他者の多様性を尊重し、協働しながらグローバルな社会で活躍できる人材の育成。

- 目標**
- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 52.4% ⇒ R7目標値: 55%)
 - 言葉や文化が異なる人や大人を含む年齢が異なる人との交流は楽しみであると回答した生徒の割合 (R7目標値: 80%)

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が、本市目標数値(50%)を達成した。

(R5:48%⇒R6:52.4%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「話すこと [やり取り]」の領域における授業が進んでいる。

未だ改善が必要な点

①授業改善の傾向がみられるものの、R6全国学力・学習状況調査「話すこと [やり取り]」の結果から、引き続き課題と捉えている。

②ICT機器の活用状況について「学習者用デジタル教科書」を50%以上の授業で活用した学校の割合が低く、改善が必要である。

③「家庭学習におけるICT機器の活用頻度」が週1回以上と回答した学校の割合が低く、改善が必要である。

2. 要因分析

①②①授業改善研修や経験研修、学校訪問において、言語活動の好事例と授業改善案を周知したことで、言語活動を設定した上で資質・能力の育成につながる授業改善が進んでいると考えられる。一方、教員の指導経験による部分が大きく、学校間で差が見られる。また、MEXCBTの調査問題を例に、CEFR A1相当の英語力について周知したことで、同等の評価ができるようになってきている。

①②①生徒の英語力に繋がるALTの効果的な参画方法について、周知されていないことが課題である。

②③「学習者デジタル教科書」や家庭学習におけるICT機器の活用事例とその効果等が十分に周知されていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組 (1)

①②①ALTを効果的な参画による授業改善の促進

- ・ALTとの効果的なチーム・ティーチングについて理解を深めることを目的とした、JTEとALTによる全校悉皆の「ALTとの連携研修」を実施し、言語活動を通じた授業改善を加速させる。

- ・ALTの配置数増員に向け、研究員研修において、授業内外におけるALTの効果的な活用方法と、資質・能力育成や学習意欲向上についての成果検証を行う。

「話すこと[やり取り]」の力向上に向けた取組 (2)

①①②③ICTを効果的に活用した授業改善の促進

- ・「AIを活用した英語教育強化事業」への参画により、AI(World Classroom)を活用した授業改善の可能性とその成果について、実証校にて検証を行いAI普及のための予算化を図る。また、その効果を周知するための研修や授業公開を実施する。

- ・「令和の日本型学校教育における外国語教育の在り方」における「学習者用デジタル教科書」の効果的な活用の好事例やその教育的効果を周知するために、授業改善リーフレットに基づいた研修や学校訪問での指導を行う。

- ・「家庭学習の手引き ～ICT活用編～」を発行し、家庭学習における「学習者用デジタル教科書」の活用方法を周知する。

①学力調査による、英語力向上に向けたPDCAサイクル

- ・生徒の英語力を測定するために、CEFR A1相当の調査問題を出題する。
- ・授業改善の方向性を示すために、目的や場面、状況等を設定した言語活動のモデルとなる調査問題を出題する。
- ・課題把握により、取組の見直しにつなげる。

令和7年度 浜松市 英語教育改善プラン

言語や文化、年齢が異なるあらゆる他者の多様性を尊重し、協働しながらグローバルな社会で活躍できる人材の育成。

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: A2以上 89.1%、B1以上 64.1% ⇒R7: A2以上85%以上、B1以上70%)
- 言葉や文化が異なる人や大人を含む年齢が異なる人との交流は楽しみであると回答した生徒の割合 (R7目標値: 80%)

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A2相当以上の英語力を取得するまたは有すると思われる生徒の割合が目標値を上回った。
(R5:82.6%⇒R6:89.1%)
- ②英語担当教師の英語力の状況について、全ての教師がCEFR B2相当以上の英語力を身に付けている。

未だ改善が必要な点

- ①英語の総授業時数における、ALTの授業への参画時数の割合が25%以上50%未満となっており、改善の傾向が見られていない。
- ②学習者用デジタル教科書の活用状況はよいが、その他のICT機器の活用状況については、改善が必要である。
- ③生徒の英語による言語活動の状況について改善が必要である。(R5:100% ⇒R6:66.7%)

2. 要因分析

- ①学校訪問において、学習指導要領で求められている資質・能力、言語活動の具体について研修を行ったことが、言語活動の充実につながったと考えられる。
- ②「教師の英語力・指導力向上のための実践的オンライン研修」受講者が、校内において研修内容を共有し、展開していったことが要因と考えられる。また、外部検定試験の特別受験制度の活用を進めたことも要因と考えられる。
 - ①ALTとの効果的なチーム・ティーチングについての理解が十分でないことが要因と考えられる。
 - ②ICT機器の活用事例とその効果等が十分に周知されていないことが要因と考えられる。
 - ③領域ごとに言語活動の状況に偏りがあったことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①③ALTを効果的な参画による授業改善の促進
 - ・ALTとの効果的なチーム・ティーチングについて理解を深めることを目的とした、JTEとALTによる全校悉皆の「ALTとの連携研修」を実施し、言語活動を通じた授業改善についてその成果を展開する。
 - ・ALTの配置数増員に向け、研究員研修において、授業内外におけるALTの効果的な活用方法と、資質・能力育成や学習意欲向上についての成果検証を行う。
- ①②③ICTを効果的に活用した授業改善の促進
 - ・「令和の日本型学校教育における外国語教育の在り方」における「学習者用デジタル教科書」の効果的な活用の好事例やその教育的効果を周知するために、授業改善リーフレットに基づいた研修や学校訪問での指導を行う。
 - ・「家庭学習の手引き ～ICT活用編～」を発行し、家庭学習における「学習者用デジタル教科書」の活用方法を周知する。
 - ・「AIを活用した英語教育強化事業」への参画により、AI(World Classroom)を活用した授業改善の可能性とその成果について、実証校にて検証を行いAI普及のための予算化を図る。また、その効果を周知するための研修や授業公開を実施する。
- ①②①②③教育センター主催の授業づくり研修や、静岡県教育委員会が行う研修への参加を奨励していく。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式(様式2)

浜松市教育委員会

浜松市教育委員会管轄の高等学校は1校のみのため、一部非公表としています。

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)											
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)											
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%		100.0%		100.0%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	80.0%	66.7%	80.0%	66.7%	80.0%		80.0%		80.0%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	70.0%	90.9%	90.0%	100.0%	90.0%		90.0%		100.0%			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80.0%	66.7%	80.0%	50.0%	80.0%		80.0%		85.0%			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50.0%	48.0%	50.0%	52.4%	55.0%		57.5%		60.0%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	88.0%	86.8%	90.0%		90.0%		90.0%		90.0%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	95.0%	76.4%	95.0%		95.0%		95.0%		95.0%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表(%)	55.0%	47.9%	55.0%		60.0%		60.0%		60.0%	
		達成状況の把握(%)	80.0%	64.6%	80.0%		80.0%		80.0%		80.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	42.9%	50.0%	42.9%	50.0%		60.0%		60.0%		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85.0%	80.6%	85.0%		85.0%		85.0%		90.0%			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	92.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%
		公表(%)	33.0%	36.5%	50.0%		50.0%		50.0%		60.0%
		達成状況の把握(%)	68.0%	70.8%	80.0%		80.0%		80.0%		90.0%